

令和 6 年 6 月 26 日現在

機関番号：32608

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20H00031

研究課題名（和文）戦国軍記・合戦図の史料学的研究

研究課題名（英文）Historical research of war chronicle and war painting

研究代表者

堀 新（HORI, Shin）

国立女子大学・文学部・教授

研究者番号：80296524

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 29,900,000円

研究成果の概要（和文）：全国に散在する戦国合戦図と源平合戦図の熟覧と高精細カメラによる写真撮影を行った。コロナ禍の影響もあり、史料調査を実施できる所蔵機関は限られ、海外での史料調査は実施できなかった。しかしオンライン研究会をほぼ毎月実施し、共同研究メンバーだけでなく所蔵機関の方々や、海外の研究者を含む関連業績のあるゲストメンバーを迎えて行うことにより、調査対象史料に関する情報共有、研究報告による最新の研究成果の共有をはかることができた。それらの内容をまとめて、科研報告書『戦国軍記・合戦図の史料学的研究』を刊行した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

社会的には著名だが、基礎的な研究が著しく遅れている戦国合戦図屏風について、それぞれの特徴を日本史学・日本文学・美術史学の3分野の専門家による共同研究によって検討・協議した。戦国合戦図屏風は博物館の展示や一般書の図版等でしばしば利用されるが、その際のガイドライン的な研究内容を含むものである。そしてこの共同研究を通じて、日本史学・日本文学・美術史学の3分野による共同研究方法を確立するためのステップとなった。

研究成果の概要（英文）：We carefully examined the Sengoku period battle scenes and the Genpei War scenes scattered throughout the country and photographed them with a high-definition camera. Due to the impact of the COVID-19 pandemic, the number of institutions that could conduct historical research was limited, and it was not possible to conduct historical research overseas. However, by holding online study meetings almost every month and inviting not only joint research members but also people from holding institutions and guest members with related achievements, including overseas researchers, we were able to share information about the historical materials under investigation and the latest research results through research reports. The findings were compiled and published as a research report entitled "Historical Study of Sengoku War Chronicles and Battle Illustrations."

研究分野：日本史

キーワード：戦国軍記 戦国合戦図屏風 源平合戦図屏風 戦功覚書 合戦図 戦国合戦 古戦場図

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

戦後の歴史研究は戦前の皇国史観の軛から解放され、史料公開の進展により一次史料にもとづく実証的な研究が進んだ。後世の編纂史料や軍記物語等から形成された通俗的な歴史観・事実認識の誤りが次々と指摘され、科学的な歴史研究が展開した。その一方で研究の進展とともに個別細分化が進んだ。また一次史料による基本的事実の見直しが進むなかで、時には「一次史料には記載されていない」「二次史料にしか記載がないから事実ではない」として簡単に否定する傾向も生まれている。勿論こうした傾向のなかにも正しい判断もあるが、一律に二次史料を切り捨てる過度な一次史料至上主義とでもいうべき傾向には問題がある。

近年の戦国・織豊期研究では、戦国大名や豊臣秀吉の発給文書(一次史料)の収集・整理が進められ、研究環境が飛躍的に進展しつつある。それと同時に二次史料の見直しも進んでいる。高坂弾正「甲陽軍鑑」や小瀬甫庵「信長記」等の二次史料の成立年代が、想定されてきたよりも早いことや、言語表現が古態をもっていること等が指摘され、史料的価値を再評価する傾向もある。また、二次史料ではあるが一次史料に近い価値があるとされる太田牛一「信長公記」に関する研究も進んでおり、その一端は、本申請課題の研究代表者である堀新編『信長公記を読む』(吉川弘文館、2009年)、研究分担者である金子拓編『「信長記」と信長・秀吉の時代』(勉誠出版、2012年)によって進展した。また軍記物語が突然生まれるのではなく、軍功覚書や由緒書・家譜等から形成されることは、金子拓が明らかにしている(同「戦功書上、家譜および”地域の軍記”から見る大坂の陣の佐竹家」)。つまり、二次史料のなかにも一次史料に近い史料的価値をもつ部分が含まれており、それらを選び出すことによって二次史料を有効に活用することが可能となるのである。このことを最も典型的に示すのが、豊臣秀吉の朝鮮侵略が愛児鶴松の死直後に急速に具体化することである(堀新「豊臣秀吉の唐入り構想」『立正史学』125、2019年)。もちろん戦争原因はこれだけではないが、愛児の死が開戦と無関係とは考えられず、戦後歴史学が切り捨てた「朝鮮征伐記」等の記述に一定の有効性を認めるべきであろう。また、正室北政所の実名が「ねね」だったことが秀吉自筆書状から明らかとなったが(堀新「北政所の実名」、堀新・井上泰至編『秀吉の虚像と実像』、笠間書院、2016年)、これも土屋知貞「太閤素生記」等の二次史料の誤りとされてきたことが、一次史料で裏づけられたのである。こうした二次史料のもつ正確な情報を引き出すことが、今後の歴史研究において急務である(堀新「二次史料は二級史料ではない」『東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信』85、2019年)。

歴史学・文学・美術史学の各分野において二次史料の研究が進展していることが、本申請課題の背景としてある。ただし、同じ時代や事象を検討対象としながらも、各々の領域にはそれぞれの問題関心や分析手法にもとづいた独自の研究蓄積があり、共同研究には相互理解のための十分な準備が必要であった。そこで研究代表者である堀新は、2016～18年度科研費・基盤研究B(一般)課題番号16H03480「戦国軍記・合戦図屏風と古文書・古記録をめぐる学際的研究」(研究代表者・堀新)においてこの3分野による共同研究に着手し、現在も継続的に調査・研究を行っている。研究素材の性格上、これら3分野の協働が必須であるものの、従来、恒常的な共同研究の場は皆無であった。

### 2. 研究の目的

本研究は、前科研(2016-2018年度基盤研究B(一般))「戦国軍記・合戦図屏風と古文書・古記録をめぐる学際的研究」、課題番号16H03480、研究代表者・堀新)の成果を引き継ぎ、さらに発展させようとするものである。

目的の第一に、戦国軍記の誤謬や虚構性のみを取り上げて断罪するだけでなく、そのなかから歴史史料として有用なものを確定して、一次史料の欠を補う記述や、一次史料とは異なる視点に基づき内容を取り出す。また、そのための方法論を磨く。

第二に、戦国合戦図のなかに数千人もの兵士が描かれているものもあり、そもそも何が描かれているのかが判然としないものもあるが、高精細カメラによって写真撮影して、肉眼では読み取れない細部まで確認し、そこに何が描かれているのか、そしてそれは何にもとづいているのか、を明らかにする。

第三に、得られた知見をもとにして、新しい戦国時代史を構築する。

### 3. 研究の方法

以上の第一～第三の目的を達成するために、歴史学・文学・美術史学の学際的なアプローチを取り入れる。

具体的には、3分野共同で資料調査を行い、対象資料を熟覧する過程で自由に意見交換する。そしてオンライン研究会を開催し、調査参加者以外の共同研究メンバーも参加して、調査結果（新知見など）を確認・共有する。その過程においても3分野による自由な意見交換を行う。またオンライン研究会では研究発表も行い、3分野による自由な意見交換をする。

意見交換や新知見の共有において、3分野それぞれの専門性にもとづく見解をお互いに尊重することが基本であるが、見解が相違することも少なくない。そうした場合は見解が相違するポイントをお互いに確認するとともに、何がどこまでは共通するのかを確認しつつ議論を進めていく。

以上の共同研究を通じて、歴史学・文学・美術史学の学際的な研究手法を築き上げていく。

### 4. 研究成果

2であげた3つの研究目的に即して、以下に述べる。

第一の点については、一口に「戦国軍記」と言ってもその性格は多様であり、おもに近世後期に成立した「娯楽作品」から歴史史料として有用な記述を見出すことは難しい。そのような可能性があるのはおおむね寛文年間（1661～73）までに成立したものと考えられる。ただし「娯楽作品」は幅広い読者をもち、現代にまで大きな影響力をもつものもある。「徳川史観」「將軍史観」のように現代の我々のなかにも潜んでいる「無意識の歴史意識」を照射する重要な素材でもある。

第二の点については、戦国合戦図を「源平合戦図の伝統を縦軸、東アジアの合戦図を横軸」として検討することが重要である。しかしコロナ禍によって韓国や中国での資料調査を行うことはできなかった。その点は残念だったが、源平合戦図や南北朝合戦図、さらには戦国合戦図でもこれまであまり検討されてこなかったものを調査し、『2020～2023年度科研費A（一般）研究成果報告書『戦国軍記・合戦図の史料学的研究』、2023年2月』においてその成果を収録することができたのは大きな成果である。科研報告書では研究書や研究誌に掲載しづらい史料紹介など基礎データの紹介などを中心とし、なるべく多くのカラー図版を掲載した。史料翻刻など大部のものはQRコードからデジタルデータにアクセスできるようにしたものもある。なお、科研報告書とは別に「論文集」の刊行を企画している。

最後の第三点目については、見通しではあるが、近世後期に成立した合戦図屏風のなかには「娯楽作品」の内容による図像をもつものがある。こうしたことが手がかりになると考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計24件（うち査読付論文 14件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 井上泰至	4. 巻 57
2. 論文標題 軍記はいくさの何を描かないのか - 大阪城天守閣蔵『大坂夏の陣図屏風』を例に -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 説話文学研究	6. 最初と最後の頁 113-121
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒田智	4. 巻 39
2. 論文標題 苗加次郎右衛門の怪力譚	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 砺波散村地域研究所研究紀要	6. 最初と最後の頁 16-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 龍澤彩	4. 巻 1522
2. 論文標題 狩野昌運筆 酒呑童子絵巻	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 國華	6. 最初と最後の頁 16 - 22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 龍澤彩	4. 巻 99
2. 論文標題 資料紹介 平家物語絵巻模本	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 金城日本語日本文化	6. 最初と最後の頁 41-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 湯浅佳子	4. 巻 72-2
2. 論文標題 記録から文芸へ 戦国軍記の展開	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本文学	6. 最初と最後の頁 50-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 薄田大輔	4. 巻 50
2. 論文標題 長篠・長久手合戦図屏風再考 - 絵画史研究の視点から -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 金鯢叢書	6. 最初と最後の頁 25-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 堀新	4. 巻 852
2. 論文標題 織豊権力論へのガイド	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 22-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀新	4. 巻 28
2. 論文標題 戦国合戦図の基礎的研究 - 兵庫県立歴史博物館所蔵「播磨三木城合戦図」の場合	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 共立女子大学・共立女子短期大学 総合文化研究所紀要	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 井上泰至	4. 巻 70-7
2. 論文標題 「失敗の本質」を問う/問わない戦記・絵画	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本文学	6. 最初と最後の頁 2-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金子拓	4. 巻 122-11
2. 論文標題 賀茂別雷神社と最長寿寺	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国学院雑誌	6. 最初と最後の頁 271-293
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 金子拓	4. 巻 95
2. 論文標題 賀茂氏人花押考	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所画像史料解析センター通信	6. 最初と最後の頁 2-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒田智	4. 巻 70
2. 論文標題 長禄四年の「百日大雨」と「砂成」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 北陸史学	6. 最初と最後の頁 111-126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川合康	4. 巻 55
2. 論文標題 「鹿ヶ谷事件」再考	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 待兼山論叢 史学篇	6. 最初と最後の頁 1-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 薄田大輔	4. 巻 48
2. 論文標題 尾張家麴町屋敷御成御殿の障壁画について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 金鯢叢書	6. 最初と最後の頁 1-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 湯浅佳子	4. 巻 9
2. 論文標題 古典教材としての『平家物語』「那須与一」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 伽とぎ	6. 最初と最後の頁 32-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐島顕子	4. 巻 20
2. 論文標題 大衆文化作品翻訳にみる社会・文化・ジェンダー - 花束の韓国語と一輪挿しの日本語 -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本語とジェンダー	6. 最初と最後の頁 27-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀新、奥彩子、吉澤弥生	4. 巻 27
2. 論文標題 デジタル人文学の研究と教育に関する基礎的研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 共立女子大学・共立女子短期大学 総合文化研究所紀要	6. 最初と最後の頁 73-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 金子拓	4. 巻 89
2. 論文標題 賀茂別雷神社文書中の羽柴秀吉書状について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 古文書研究	6. 最初と最後の頁 122-127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本聡美	4. 巻 2020-1
2. 論文標題 De la Voie des esprits demoniaques a la Voie des titans: Reconsideration sur les peintures talismaniques (邦題: 鬼神道から阿修羅道へ 辟邪絵再考)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 PERSPECTIVE	6. 最初と最後の頁 167-188
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4000/perspective.18343	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 井上泰至	4. 巻 12
2. 論文標題 蔚山城の清正 : 『絵本太閤記』を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 読本研究新集	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 須田牧子	4. 巻 872
2. 論文標題 遣明使節の旅	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本歴史	6. 最初と最後の頁 45-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高岸輝	4. 巻 700
2. 論文標題 美術史 / 日本史の境界と越境の可能性 展覧会・美術全集・デジタル画像	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本史研究	6. 最初と最後の頁 28-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高岸輝、阿部美香、阿部泰郎、神崎壽弘	4. 巻 961
2. 論文標題 〔資料〕 融通念佛宗総本山大念佛寺所蔵融通念佛縁起絵巻資料集成	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 学苑	6. 最初と最後の頁 277-361
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 金子拓	4. 巻 31
2. 論文標題 太田牛一『信長記』振仮名覚書	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所研究紀要	6. 最初と最後の頁 14-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計22件（うち招待講演 16件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 堀新
2. 発表標題 豊臣政権の軍役体制成立をめぐる
3. 学会等名 東北アジア歴史財団（韓国）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 佐島顕子
2. 発表標題 Discussion（コメント）
3. 学会等名 東北アジア歴史財団（韓国）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山本聡美
2. 発表標題 修羅と鎮魂の六道語り
3. 学会等名 海の見える杜美術館「平家物語絵」展記念講演会「描かれた平家物語」（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山本聡美
2. 発表標題 軍記と女性 建礼門院六道語りと中世合戦図
3. 学会等名 総合女性史学会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 金子拓
2. 発表標題 読んだあとの書状の残り方 佐竹文書から
3. 学会等名 国史談話会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山本洋
2. 発表標題 戦国軍記のテキストからの人名抽出
3. 学会等名 情報処理学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 金子拓
2. 発表標題 佐竹文書の成立と伝来
3. 学会等名 秋田県立博物館特別展講演会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 金子拓
2. 発表標題 松永久秀の室と家臣
3. 学会等名 東京大学ヒューマニティーズセンター・オープンセミナー
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 黒田智
2. 発表標題 絵画史料の読み方 肖像画の髭と年齢
3. 学会等名 国文学研究資料館・北京外国語大学日本学研究センター「奈良絵本・絵巻・肖像画 図像学へのアプローチ」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 黒田智
2. 発表標題 前谷松龍寺の千体仏
3. 学会等名 あわら市郷土歴史資料館第3回ふるさと講座(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山本聡美
2. 発表標題 愛執の図像学 中世説話画に描かれた愛と発心
3. 学会等名 二松学会大学人文学会第123回大会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山本聡美
2. 発表標題 横川靈山院の六道絵 『往生要集』からの飛躍
3. 学会等名 仏教文学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高岸輝、ヴァンサン・ドロゲ、エステル・ポーエル、ヴァンサン・コシェ、鈴木廣之、日高薫
2. 発表標題 王者の絵画と御用絵師1000年の終焉
3. 学会等名 フォンテーヌブロー美術史フェスティバル、ラウンドテーブル「美術と外交、フォンテーヌブロー宮殿日本美術コレクション展」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 湯浅佳子
2. 発表標題 The Reception of SENDAI KUJI HONNGI TAISEI-KYO in the Popular and Didactic SHINTO Literature of The 18th and 19th Centuries.
3. 学会等名 EJAS2021 16th International Conference of the European Association for Japanese Studies, (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 須田牧子
2. 発表標題 史料編纂所の新たな画像公開方法について - 倭寇図巻デジタルアーカイブの構築を例として -
3. 学会等名 東京大学史料編纂所画像史料解析センター・前近代日本史情報国際センター主催公開研究集会「新たな画像公開方法とデジタル連携」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 金子拓
2. 発表標題 織田信長と明智光秀
3. 学会等名 亀岡市文化資料館第35回特別講演会(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 金子拓
2. 発表標題 「麒麟がくる」の時代と鳥取 羽柴秀吉と明智光秀
3. 学会等名 新鳥取県史刊行記念シンポジウム講演（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山本洋
2. 発表標題 計量テキスト分析を用いた戦国軍記の分類
3. 学会等名 国文学研究資料館共同研究成果発表会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山本洋
2. 発表標題 Scenes from the battlefields of early modern Japan depicted on folding screens
3. 学会等名 Poland-Japan Academic Exchange Kick-off Symposium（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高岸輝
2. 発表標題 中世絵巻に描かれた霊地と国土 王者と聖者の見た風景
3. 学会等名 続・古典を読む - 歴史と文学 - 長野県立長野高校（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 須田 牧子
2. 発表標題 豊臣秀吉冊封関連史料に紙質から迫る 三通の明国兵部劄付原本の検討
3. 学会等名 国文学研究資料館共同研究成果発表会「新しい軍記関係資料論 理文融合型研究の現在」(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 須田 牧子
2. 発表標題 15～16世紀の赤間関の機能
3. 学会等名 立教大学公開シンポジウム「港市と渡海者 港を結ぶネットワーク」
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計22件

1. 著者名 堀 新、井上 泰至、湯浅佳子、黒田智	4. 発行年 2023年
2. 出版社 文学通信	5. 総ページ数 388
3. 書名 家康徹底解読	

1. 著者名 関西軍記物語研究会、山本洋	4. 発行年 2022年
2. 出版社 和泉書院	5. 総ページ数 480
3. 書名 研究叢書549 軍記物語の窓 第六集	

1. 著者名 高岸輝	4. 発行年 2023年
2. 出版社 高松市歴史資料館	5. 総ページ数 56
3. 書名 万物流転 語られるイメージと時間	

1. 著者名 川西裕也、中尾道子、木村拓、金子拓	4. 発行年 2023年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 498
3. 書名 壬辰戦争と東アジア	

1. 著者名 井上泰至	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 236
3. 書名 資料論がひらく軍記・合戦図の世界	

1. 著者名 中根千絵、薄田大輔	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 416
3. 書名 合戦図 描かれた 武	



1. 著者名 黒田 智	4. 発行年 2021年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 332
3. 書名 たたかう神仏の図像学	

1. 著者名 木俣元一、近本謙介、山本聡美	4. 発行年 2022年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 728
3. 書名 宗教遺産テキスト学の創成	

1. 著者名 辻 惟雄、アン・ニシムラ・モース、高岸 輝、公益財団法人 鹿島美術財団	4. 発行年 2022年
2. 出版社 中央公論美術出版	5. 総ページ数 1008
3. 書名 ボストン美術館日本美術総合調査図録	

1. 著者名 高岸輝、東京大学文化資源学研究室、東京大学文化資源学研究室、東京大学文化資源学研究室	4. 発行年 2021年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 248
3. 書名 文化資源学 文化の発見かたと育てかた	

1. 著者名 AkiraTakagishi et al.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Editions Faton	5. 総ページ数 144
3. 書名 Art et Diplomatie: Oeuvres Japonaises du Chateau de Fontainebleau	

1. 著者名 川合 康	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 410
3. 書名 源頼朝 すでに朝の大將軍たるなり	

1. 著者名 宇治市源氏物語ミュージアム（龍澤彩）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 208
3. 書名 光源氏に迫る（源氏絵を読む 宇治市源氏物語ミュージアム所蔵「源氏絵鑑帖」を例に）	

1. 著者名 佐野みどり先生古稀記念論集刊行会（薄田大輔）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 青簡舎	5. 総ページ数 1129
3. 書名 造形のポエティカ（狩野益信筆「堀川夜討絵巻」にみる江戸狩野派の物語絵巻制作）	

1. 著者名 堀 新、井上 泰至	4. 発行年 2020年
2. 出版社 文学通信	5. 総ページ数 397
3. 書名 信長徹底解説	

1. 著者名 高橋修	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 528
3. 書名 戦国合戦図屏風の歴史学	

1. 著者名 岩永てるみ、阪野智啓、高岸輝、小島道裕	4. 発行年 2020年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 150
3. 書名 「月次祭礼図屏風」の復元と研究	

1. 著者名 柳沢昌紀、伊藤慎吾、勝又基、花田富二夫、湯浅佳子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京堂出版	5. 総ページ数 288
3. 書名 仮名草子集成64	

1. 著者名 花田富二夫、大久保順子、湯浅佳子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京堂出版	5. 総ページ数 350
3. 書名 仮名草子集成65	

1. 著者名 板倉 聖哲、高岸 輝	4. 発行年 2020年
2. 出版社 羽鳥書店	5. 総ページ数 800
3. 書名 日本美術のつくり方	

1. 著者名 小林健二（龍澤彩）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 三弥井書店	5. 総ページ数 213
3. 書名 絵解く 戦国の芸能と絵画（江戸時代前期の平家物語図扇面について - 海の見える杜美術館所蔵「平家物語図扇面画帖」を中心に）	

1. 著者名 上田信、中島楽章（須田牧子）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 488
3. 書名 アジアの海を渡る人々（最末期の遣明船の動向と『倭寇図巻』）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

戦国軍記・合戦図の史料学的研究  
<http://sengokugunkiyoubu.seesaa.net/>  
 戦国軍記・合戦図の史料学的研究  
<http://sengokugunkiyoubu.seesaa.net/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	湯浅 佳子  (YUASA Yoshiiko)  (00282781)	東京学芸大学・教育学部・教授    (12604)	
研究分担者	龍澤 彩  (RYUSAWA Aya)  (00342676)	金城学院大学・文学部・教授    (33905)	
研究分担者	山本 聡美  (YAMAMOTO Satomi)  (00366999)	早稲田大学・文学学術院・教授    (32689)	
研究分担者	薄田 大輔  (USUDA Daisuke)  (00642779)	公益財団法人徳川黎明会・徳川美術館・学芸員    (72623)	
研究分担者	金子 拓  (KANEKO Hiraku)  (10302655)	東京大学・史料編纂所・准教授    (12601)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	川合 康 (KAWAI Yasushi)  (40195037)	大阪大学・大学院人文学研究科(人文学専攻、芸術学専攻、 日本学専攻)・教授  (14401)	
研究分担者	佐島 顕子 (SAJIMA Akiko)  (40225173)	福岡女学院大学・人文学部・教授  (37118)	
研究分担者	高橋 修 (TAKAHASHI Osamu)  (40334007)	茨城大学・人文社会科学部・教授  (12101)	
研究分担者	山本 洋 (YAMAMOTO Hiroshi)  (50583168)	金沢大学・国際機構・教授  (13301)	
研究分担者	須田 牧子 (SUDA Makiko)  (60431798)	東京大学・史料編纂所・准教授  (12601)	
研究分担者	黒田 智 (KURODA Satoshi)  (70468875)	早稲田大学・社会科学総合学院・教授  (32689)	
研究分担者	高岸 輝 (TAKAGISHI Akira)  (80416263)	東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・教授  (12601)	
研究分担者	井上 泰至 (INOUE Yasushi)  (90545790)	防衛大学校(総合教育学群、人文社会科学群、応用科学群、 電気情報学群及びシステム工学群)・人文社会科学群・教授  (82723)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------